

# 処分場の排水基準見直しへ

## カドミ規制強化の方向

### 廃棄物処理基準等 専門委員会

カドミウムの環境基準が見直されたことから、最終処分場からの放流水の排水基準や特

別管理産業廃棄物の判定基準の見直しに関する議論が本格化した。中央環境審議会循環型

社会廃棄物処理基準等専門委員会（委員長 酒井伸一・京都大学環境保全センター長）の第6回会合が先月開催され、今後、実態調査などを行い、既存施設の現状を見極めながら規制を強化する方向で議論することとなった。2011年7月、中央環境審議会からカドミウムの公共水域の水質汚濁に係る人の健康の保護に関する環境基準（健康保護に係る水

質環境基準）や地下水の水質汚濁に係る環境基準（地下水環境基準）の基準値を見直すことが適当であるとの答申が環境大臣に出された。11年10月27日には水質環境基準や地下水環境基準の変更が告示されている。こうした情勢を踏まえ、廃棄物処分場の基準について見直すこととなった。具体的な検討項目は▽管理型最終処分場の放流水の排水基準▽安定型最終処分場の浸透水の基準▽廃止時の地下水基準▽特別管理産業廃棄物の判定基準▽有害な産業廃棄物や特別管理産業廃棄物の埋立て処分に係る判定基準（遮断型最終処分場へ埋立処分する産業廃棄物の判定基準）▽産業廃棄物の海洋投入処分に係る判定基準など。初めての議論となった先月の検討委員会で、最終処分場からの放流水からの排出実態や処理技術の現状を詳しく把握することが重要と指摘された。経過措置の必要性も含め既存の施設がどこまで対応できるかを見極めたうえで検討の議論に入るべきとの見方が大勢となっている。

現在、環境省は議論の参考とするため、さまざまな知見や情報収集、実態調査を行っている。